

日時：2023年5月26日（金）13:00～15:08

会場：人間環境大学松山キャンパス 101号室（+オンライン）

出席者（以下、敬称略）：有光興記（理事長）、澤田匡人（副理事長）、稲垣勉（事務局長）*、
伊藤義徳、岩佐和典、内山伊知郎*、大平英樹、北村英哉、木村健太、蔵永瞳*、白井真理子*、
中村真*、成田健一、一言英文、武藤世良、山本恭子*
*オンライン参加

代理出席者：鈴木敦命（編集委員会副委員長）

委任：阿部恒之、大竹恵子、佐藤徳、鈴木まや、樋口匡貴、藤村友美

【審議事項】

1. 機関誌刊行委員会規程の改正

- ・感情心理学研究の事務作業の増加に際して、澤田副理事長ならびに鈴木副編集委員長より、JJRE編集委員会の副事務局長を委嘱可能とする規程改正の提案がなされ、承認された。

2. 感情心理学研究編集委員会規程の改正

- ・鈴木先生（副編集委員長）より、感情心理学研究の投稿状況や発刊予定について説明があった。近年の投稿状況が横ばいで、2022年度の31巻の発刊がこれからという状況であり、年間発行号数を現在の3号から2号体制に変更することが提案された。これに関して、以下の意見があった。
- ・（資料には）「現実的には32巻から可能」とあるが、規程改正の承認日付によっては31巻から2号化することも可能ではないか（有光理事長）。
- ・号別の発刊ではなく、採択された論文から順にアップしていくことを検討してもよいのではないかと（中村常任理事）。
- ・著者の不利益にならないような配慮は必要であり、in pressとなった時点でのオンライン公開などを検討してもよいのではないかと（成田常任理事）。

→審議に際して上記の意見交換がなされたのち、本提案は承認された。

- ・引き続き鈴木先生より、資料に基づき、現在は「3往復まで」としている感情心理学研究の審査サイクルの緩和の検討依頼があった。また、その背景として、3往復の時点では採択の水準に達していないためリジェクトとなっているケースがあることなどが補足された。これに関して、以下の意見があった。
- ・編集委員会規程を整備した当時、3往復と記載することを決定したが、この数字に論理的な必然性はないため、実情に応じて変更することに問題はないと考える（中村常任理事）。
- ・（補足に関連して）リジェクト率が高いことは、審査の質が高いと考えることもでき、必ずしもネガティブなメッセージになるとは限らないのでは、という意見があった。また、3往復については「原則として」という文言を加えてはどうか（大平常任理事）。

→審議に際して上記の意見交換がなされたのち、編集委員会には「原則として」という文言を付す旨を持ち帰り、翌日（5月27日）の編集委員会にて検討することとなった（その後、「原則として」という文

言を付すこととなった)。

- ・上記に関連して、プレプリントサーバーなどにアップされた論文の扱いについて規程に明記することも検討してほしい(成田常任理事)という意見や、利益相反や生成系 AI への対応については検討を依頼済み(有光理事長)という報告もあった。

3. 優秀論文賞授賞規程について

- ・有光理事長より、当該規程の第 8 条において優秀論文賞の授賞者が明確に記載されていなかったため、「代表者 1 名(原則として第 1 著者)を対象として」という文言を加えることが提案され、承認された。また、規程には「総会の場において授賞を行う」とあるが、この点を「懇親会の場において授賞を行う」と修正する提案がなされ、併せて承認された。

4. 大会発表賞授賞規程の改正

- ・有光理事長より、当該規程の第 6 条 2 項において年次大会の発表賞の授賞者についても、審議事項 2 と同様に対象が明確でなかったことから「各賞の授賞対象となった研究発表の代表者 1 名(原則として第 1 著者)を対象に」という文言を加えることが提案され、承認された。

5. 年次大会規程の改正

- ・有光理事長より、資料に基づき、年次大会規程第 4 条 2 項における「研究発表が公式に認められる要件」の「②発表時に正会員であること」について、「(ただし、学生会員を主たる発表者とする連名発表を含む)」という文言を加えることが提案され、承認された。

6. 会費未納による除名

- ・有光理事長より、資料に基づき、会費未納者の確認が行われた。3 年間以上の会費未納となっている会員の除名が承認された。

7. 2022 年度の決算案

- ・有光理事長より、資料に基づき、2022 年度の収支決算報告および谷口高士監事、村田光二監事による監査の結果が提示され、承認された。
- ・これに関連して、両監事の先生方から、学術活動等補助金(セミナー等に使用)が予算化されているものの、ここ 2 年ほど執行されていないことへの指摘があったなどが有光理事長より報告された。併せて、昨年度は感情心理学会としてのセミナー開催できたものの、他の予算(研究費等)によって費用が賄われたため、当該予算が執行されていないことの補足があった。

8. 2023 年度の予算案

- ・有光理事長より、2023 年度の予算案について、感情心理学研究の巻号が今年度より減少するため、予算より支出が減少する予定であることなどが説明され、承認された。

9. 2022 年度(第 30 回)大会(関西学院大学)会計報告

- ・一言常任理事（第30回大会事務局長）より、2022年度（第30回）大会の会計報告がなされ、承認された。

10. 大会開催

- ・有光理事長より、2024年度（第32回）大会は大阪体育大学（大会委員長：手塚洋介先生）にて開催することが提案され、承認された。

【報告事項】

1. 「退会届」について

- ・有光理事長より、2023年4月より、退会届はメールで送信するようHPに明記した旨と、年度内退会を希望する場合は、当該年度2月末までに送信するよう補足した旨の報告があった。

2. 年会費請求の時期について

- ・有光理事長より、現在は5月に当該年度の年会費請求書を発送しているが、本学会会則10条に「計年度は毎年4月1日から始まり、翌年3月31日までとする」ことが明記されているため、年会費請求書類の発送時期を、前年度3月下旬とすることが報告された。

3. 会勢報告

- ・有光理事長より、資料に基づき、現在の会勢が報告された。

4. 各委員会報告

- ・学術プログラム委員会（年次大会／セミナー／出版）

木村委員長より、資料に基づき、学術プログラム委員会活動および第30回大会の開催状況、第31回大会のプレカンファレンスについての報告が行われた。

武藤理事（国際化担当）より、出版および国際化について検討を進めている旨、報告があった。

岩佐理事（セミナー担当）より、公認心理師資格対応のセミナーについて検討を進めている旨、報告があった。

- ・機関誌刊行委員会（感情心理学研究編集委員会、エモーション・スタディーズ編集委員会）

- ・感情心理学研究編集委員会

鈴木先生（副編集委員長）より、編集委員会活動に関して、学会誌への投稿数および審査状況の推移、編集状況、編集委員（任期満了、新規就任）などについて報告がなされた。また、31巻より日本心理学会「執筆・投稿の手びき(最新版)」に対応した書式とすることや、2023年にEBSCOと契約を行ったことも併せて報告された。

加えて、資料論文の扱い、投稿論文ページ数制限の緩和、非会員の投稿審査料、カラー印刷などについて、関連する諸規程の変更を検討している旨の報告があった。今後、修正対照表などを整えた上で、理事会にて審議することとなる。

- ・エモーション・スタディーズ編集委員会

山本委員長より、編集委員会活動に関して、ESの発行状況、編集状況編集委員（任期満了、新

規就任) などについて報告がなされた。

・倫理委員会

特に報告事項なし

5. 表彰関係

・有光理事長より、優秀論文賞および大会発表賞、精励発表賞の各賞について報告がなされた。受賞者は以下の通りである。

・優秀論文賞：

池田 慎之介先生（対象論文は以下のとおり）

感情語彙サイズ推定テストの開発—コンピュータ適応型テストを用いて—(第 29 巻 2・3 合併号)

・大会発表賞

・優秀研究賞：木村 健太先生（共著者：金山 範明先生，片平 健太郎先生）

題目：心臓からの内受容信号はリスク下での意思決定を調節する

・優秀研究賞：鈴木 敦命先生（共著者：石川 健太先生・大久保 街亜先生）

題目：高齢者の直感的信頼は若年者に比べて正確性が高くバイアスが弱い

・独創研究賞：高野 了太先生（共著者：田岡 大樹先生）

題目：ポジティブ・ネガティブなスピリチュアル経験と人生の意味の関係—フィールド研究—

・グッドプレゼンテーション賞：山本 晶友先生

題目：感謝により不正の隠ぺいが正当化される可能性の検討—隠ぺいにインセンティブがある場合の検討—

・グッドプレゼンテーション賞：池田 慎之介先生

題目：感情語彙サイズがストレス及び幸福感に及ぼす影響

・精励発表賞：池田慎之介先生

【懇談事項】

1. 2025 年度以降の大会開催について

・有光理事長より、これまで複数の先生方に年次大会開催の依頼・交渉を行ってきたが、なかなか引き受けていただくことが難しかったということが報告された。2025 年度以降については未定であるため、理事の先生から募集したいので、積極的に検討してほしい旨、説明と依頼があった。

2. 利益相反に関する規程作成の WG 発足について

・有光理事長より、現時点で、本学会の機関誌（感情心理学研究，エモーション・スタディーズ）において利益相反の開示方法は明示化されていないが、日本心理学会や日本発達心理学会では、規則や指針ができていることから、本学会も規則や指針を明確にすべきであると思われる旨が報告された。そこで、

この点を検討する WG を両編集委員長，学術プログラム委員長，倫理委員会委員長をメンバーとして発足させることが提案され，了承された。

以上